

パネルディスカッション登壇者紹介

モデレーター

門村 幸夜

プロファシリテーター
NISTEP 客員研究官



省庁や研究機関など各方面でのシンポジウム、フォーラム等でプロファシリテーターとして活動する。元NHK生活情報番組リポーター・キャスター、ディレクター。元大阪大学・産学共創本部特任准教授。大阪大学においては産学共創による人材育成プロジェクトに加え、NHKとの協同企画「白熱教室 in 大阪大学」招致、「大阪大学・京都大学・神戸大学連携シンポジウム」司会、「【緊急】シンポジウム『震災の今とこれから』」ファシリテーターなど多岐にわたり活動。文部科学省 NISTEP においても SciREX シンポジウム「イノベーション創出を支える博士人材の育成」リサーチ・司会など数多くのシンポジウムに携わる。

ディスカッサント

竹森 祐樹

株式会社日本政策投資銀行
イノベーション推進室長



長年、鉄鋼や重工、機械などの製造業に対する投融資を担当し、工場訪問は国内外で累計 300 カ所を越す。特に航空機産業の国際共同開発における日本企業の地位向上や、官需中心の宇宙分野に民間事業者が参画するための基盤作りなど、航空宇宙産業をライフワークとして取り組んでいる。2019 年よりイノベーション推進室を率いて、人間の幸せに貢献する技術にこだわり、産総研や JAXA との組織間連携も活用しつつ、遠隔医療やエネルギー分野、空飛ぶクルマなど企業や組織を横断する取組に挑戦中。

パネリスト

鈴木 裕士

株式会社
エマルジョンフローテクノロジーズ
代表取締役社長 CEO



日本原子力研究開発機構の元研究者。NEDO が主催する高度専門支援人材育成プログラム (NEDO SSA) の 2 期生。原子力研究から生まれた新規溶媒抽出技術エマルジョンフローの社会実装を目指し、その開発者である長縄弘親 (当社取締役 CTO) らとともに株式会社エマルジョンフローテクノロジーズを設立。従来の溶媒抽出技術に代わる新しい技術として「エマルジョンフロー」を世界に普及し、脱炭素社会の実現に不可欠なレアメタル資源の将来にわたる安定供給の実現を目指す。

パネリスト

古川 保典

株式会社オキサイド
代表取締役社長



独立行政法人物質・材料研究機構で得られた研究成果を社会に還元したいとの思いから、2000 年に株式会社オキサイドを創業した。「結晶と光で社会に貢献する」ことを目指し、様々な単結晶材料とそれを応用したレーザ装置を開発・製造・販売している。製品の主な応用分野は、癌の早期診断で重要となる PET 検査と、データセンターやスマホの高性能化を支える半導体ウエハ欠陥検査である。2021 年 4 月東証マザーズに上場した。今後は同じハードテック分野の大学発ベンチャーの経営課題の解決をサポートしていく。

パネリスト

増田 健一

動物アレルギー検査株式会社
代表取締役社長



1992 年に鹿児島大学獣医学科卒業後、動物病院に勤務した後、米国イリノイ大学大学院に留学し修士号を取得する。その後東京大学大学院獣医内科学教室で助手として奉職、博士号取得。2004 年に理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター (当時) へ異動し、IgE 定量測定の特許出願を行う。その特許を利用して 2007 年に理研ベンチャー動物アレルギー検査株式会社を設立、代表取締役社長となる。2015 年には理化学研究所バトンゾーン研究推進プログラムに人工ワクチン研究チームを設置しチームリーダーとして共同研究を継続する。その成果を社会実装するため創業ベンチャーとしてエピトマップ株式会社を設立し、代表取締役社長として現在に至る。
獣医師 獣医学修士 (米国イリノイ大学) 獣医学博士 (東京大学)。

パネリスト

五味 馨

国立研究開発法人国立環境研究所
福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 室長



2010 年京都大学工学研究科特定研究員、2014 年国立環境研究所社会環境システム研究センター研究員を経て 2016 年より同福島支部に赴任。専門は統合評価モデルを利用した持続可能社会シナリオの構築。現在の研究課題は双方向型の定量的シミュレーションによる復興と持続可能発展に向けた地域の将来像及びロードマップ構築。これまで滋賀県、京都市、福島県新地町、同郡山市のほか、アジア地域 17 の国・地域において各地域の行政担当者・研究者等との協力により地球温暖化対策を中心とした定量的な将来ビジョンを構築し分析結果を政策策定に提供。社会対話として 3 次元地図による環境情報のプロジェクションマッピングや SNS での情報発信にも取り組む。京都大学博士 (地球環境学)。